

### 39. ホソバヘラオモダカ（オモダカ科サジオモダカ属）

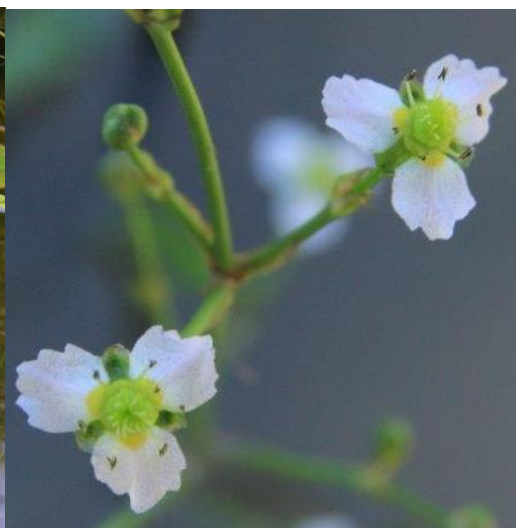
*Alisma canaliculatum* A.Braun et C.D.Bouché var. *harimense* Makino

2015年9月

ため池や水路などの浅瀬や湿地に生育する多年生水草で、葉を水面上に出す抽水植物です。根茎は短く葉は根生し、また多くの根を出します。葉は全縁の狭披針形で長さ8~20cm、幅3~10mmで葉柄との境は明瞭ではありません。花は7~9月に径1cmほどの両性花を咲かせます。20~60cmの花茎に3輪生の枝が数段つき、さらに各枝に3輪生の小枝を数段だし、細枝の先に花を付けます。花弁は3個で白色から淡紅色、基部は黄色で縁には不規則な鋸歯があります。がく片は3個で緑色です。葯の色は紫褐色で基本種のヘラオモダカ (*A. canaliculatum* A.Braun et C.D.Bouché) が黄色であることが大きな違いとなります。また、本種の開花時間は午前11時ごろからで、ヘラオモダカより1~2時間遅く咲くことも特徴の一つです。果実は扁平なそう果で1個の種子となり、倒卵形で長さ2~2.5mm、幅1.5mmで胚を形づくりませんが胚乳はありません。兵庫県版レッドデータブック2010のAランク、近畿版レッドデータブック2001のAランク、日本の絶滅のおそれのある野生生物第4次レッドリストはCRランクに位置するごく希少な植物です。分布は兵庫県播磨地域だけで日本固有種です。別名のシジミヘラオモダカは基準産地である三木市志染町にちなんで名づけられました。現在確認できるのは三木市のほか、神戸市、加東市、小野市、三田市などで、湧水のあるような環境を好むようです。



ホソバヘラオモダカ



花の拡大（葯の色は紫褐色）

撮影：大嶋範行氏